

庄内町立図書館だより

よめっちゃん

(本をたくさん

「読んでね」との願いを込めて)

2017.5.31(No.23)



図書館カレンダー ★開館時間

⇒休館日 平日 午前9:00～午後7:00

⇒10冊貸出 土日 午前9:00～午後5:00

6月

日	月	火	水	木	金	土
				1	2	3
4	5	6	7	8	9	10
11	12	13	14	15	16	17
18	19	20	21	22	23	24
25	26	27	28	29	30	

7月

日	月	火	水	木	金	土
						1
2	3	4	5	6	7	8
9	10	11	12	13	14	15
16	17	18	19	20	21	22
23	24	25	26	27	28	29
30	31					

出張図書館 6/11

In おもしろちゃあまるめ

Sh♪w店街

町立図書館も参加します！
ぜひ遊びに来てください😊

- ・つちだよしはる先生オリジナルの塗り絵
- ・あおぞらおはなし会
- ・本の貸し出し 等。。。 が楽しめます！

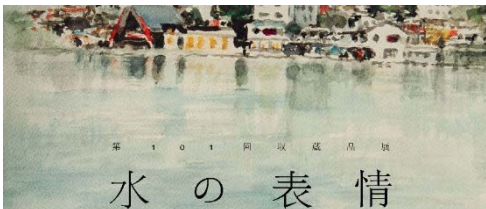
旧みつば薬局前にてお待ちしております



おはなしらんど ★ たのしいおはなし会
☆日時：6/21(水)・10時～
☆会場：図書館ホール

庄内町内藤秀因水彩画記念館

開催中の展覧会をご紹介します(～7/14(金))



当館収蔵品より、水辺の風景が描かれた作品を約50点ご紹介します。

内藤秀因は全国各地の水辺を描いており、時間や天候によって変わる水の表情が、水彩画ならではのにじみを活かした表現や、色と色を重ねることで生まれる微妙な色づきいで巧みに捉えられています。蒸し暑くなるこの季節、目に涼やか、心に穏やかさをもたらすような作品を選びました。ぜひご覧ください。

余目水彩画会 余目水彩画会 絵画展

余目水彩画会は平成6年に、余目第二公民館で開催された水



佐藤 光治「雪の立谷沢川」

彩画教室をきっかけとして、有志により結成された水彩画会です。現在、庄内町を中心とする庄内各地での展示会など精力的に活動しています。

本展では余目水彩画会会員および講師の作品を10点展示いたします。

挑め！図書館のなぞ



本の仲間わけ

図書館に並んでいる本。。。 どうやって整列させているかご存知ですか？料理の本、動物の本、なんとなーく同じところにあるようで、実はきっちり仲間わけされているのです！

どうやって整列させているかご存知ですか？料理の本、動物の本、なんとなーく同じところにあるようで、実はきっちり仲間わけされているのです！



上段に分類番号、中段に作者の頭文字、下段にはシリーズものの場合などに巻数が記入されています

専門家によって0～9までの10のタイプに分類された本が図書館に届き、図書館司書が本棚に並べます。ぜひ図書館の「本棚」、じっくりご覧ください💡

お問い合わせ 図書館・内藤秀因水彩画記念館

43-3039

分館 56-3308

図書館HP→<http://www.town.shonai.lg.jp/library/>

今年度から図書館に4人の新メンバーが加わりました！
今回は4人の新メンバーと館長のおすすめ本をご紹介します。
資料をご活用いただくとともに、どうぞ図書館員にもお気軽にお声掛けください



佐藤



後藤

『聖書と歎異抄』 五木寛之・本田哲郎／著(東京書籍)



蓮如、法然、親鸞など浄土真宗にまつわる多くの本を執筆している五木寛之氏とキリスト教宗教学者であり研究者である本田哲郎氏の2人の対談形式で構成された本です。両氏のこれ

まで表立って語られてこなかった仏教と基督教の真実についての歯に衣を着せぬ舌鋒鋭い対談は、読む者をとてもワクワク、ドキドキさせてくれます。同時に、五木寛之氏の宗教にかかわる造詣の深さには驚嘆させられてしまいます。

私たちが普段抱いている宗教に対する固定観念が「えっ、実はそうだったのか！」とガラガラと壊される感覚がこの本の面白さでもあります。

崇高で近寄りがたいと思っている方にも気軽に読んでいただきたい最新の1冊です。



館長 渡會

新生活に奮闘する日々…
暑かったり寒かったり…
雨がふったりやんだり…

癒しの読書

体も心も健康に

図書館があなたの癒しをサポートします！

『羊と鋼の森』 宮下 奈都／著 (文藝春秋)



この4月から我家は、進学し家を離れた、職場が変わったりと、それぞれに新生活をスタートさせました。何かと騒々しい娘のいない家の中は妙に静かで、特にピアノの音がしなくなったのは寂しいものです。

我家のピアノは、娘が習い始める際に、実家で置物状態になっていた私のピアノを運んできた年代物です。十数年ぶりに丁寧に調律してもらったピアノは、以来13年間、娘の成長とともにその音色を響かせてくれました。

本書は、ピアノの調律に魅せられた一人の青年が、失敗や困難に突き当たりながら、調律師として、人として成長していく物語です。悩み迷いながらもひたむきに努力を重ね、より良き音を探求する主人公。

優しいピアノの音色のように、心に温かく寄り添ってくれる1冊です。

森田



『きっと明日はうまくいく 魔法の一步』 斎藤茂太／著 (イースト・プレス)



4月から図書館でお世話にならせていただくことになり、小中学生頃の図書館での記憶が今一気に蘇っています。

図書館の静かで落ち着いた雰囲気や本の感触が五感に心地良かったこと、本を探せずにいると、職員の方が笑顔で、しかも天使のような声で「何かお手伝いできることがありますか？」と声をかけて下さったこと(かくありがたい…。密かな野望です)、どうあがいても不出来で、「私なんか」と卑下する思いをずっと引きずっているところを、精神科医でもある斎藤茂太氏の明るく前向きでハートフルな数々の著書に触れ、うまく自分の気持ちの切り替えをすることも必要と教わったこと、等々。

斎藤茂太氏の著書で気持ちを癒し、まずは心を健康にしてみませんか？



横田

『きょうはパーティーのひ』 樋勝 朋巳／文・絵 (福音館書店)



春から図書館でお世話になっております。まだまだわからないことが多く、ご迷惑ばかりお掛けしてしまっている日々ですが、とても楽しく過ごさせていただいています。

そんな中、とある絵本の表紙に釘付けになってしまいました。スカーフをなびかせポーズを決め、つぶらな瞳で微笑むタイトを穿いた犬(たぶん)。「これ絶対好きなやつ…」という確信を持って絵本を開くと、思った通り、すぐに心を驚嘆みにされてしまいました。登場するキャラクター達の強烈な個性、彼らの何とも言えない表情やしぐさを眺めているだけで心がほっこりします。

子どもたちはもちろん、ぜひ大人の皆さまにも、この自由な世界を堪能していただきたいです。



小砂川

『ブラフマンの埋葬』 小川 洋子／著 (講談社)



タイトルの「ブラフマン」というのは、小説に登場する手足が短くて尻尾が大きくて毛がふわふわしている、小さくて可愛い動物の名前です。なんといっても、この「ブラフマン」の健気な可愛らしさにこころ癒されるはず！

しかし、タイトルは『ブラフマンの埋葬』……そして著者は小川洋子さん。前作はベストセラーとなった『博士の愛した数式』という小説ですが、物語を包む優しさの中に、終始寄り添う、もの哀しさや切なさを感じた方も少なくないのではないのでしょうか。今作も、まるで初夏の夕立と濡れた草の匂い、すこし肌寒い風にそよぐシャツの裾の感触のような、そんな胸がきゅっとなるような切なくて、なにかが愛おしくなる。こころを癒す物語です。



大滝